

自治体名	北九州市
------	------

女性の健康支援対策の概要

女性と男性とでは疾病の罹患率や進行の様相が異なることで、「性差に基づいて健康づくりを推進することや疾病の管理を行うこと」の重要性が指摘されている。本市においても、女性の健康づくりは大変重要と考えており、各種の健康イベントにおいて、臨床検査技師会や乳がん啓発団体と連携して、女性特有の子宮頸がんや乳がんに関する啓発を行うとともに、女性の健康支援に関する健康教育や健康相談を行っている。

市内の女性が、健康づくりのための自主的な健康管理や保健行動ができるようになることを目指し、関係団体等と連携して事業展開を図る。

自治体の特徴

北九州市は、1963年に旧5市が対等合併して生まれた九州初の政令市である。九州の最北端に位置し、関門海峡を挟んで本州と接しており、長い海岸線と緑豊かな自然に恵まれている。エコタウン事業を展開し、環境モデル都市に選定されるなど、環境のまちでもある。全国平均を上回る速さで高齢化が進んでいるという特徴も持っている。

人口構成・(H22.3.31現在)

	総数	男	女
人	977,960	462,354	515,606
割合(%)	100	47.3	52.7

15歳未満	129,091	66,061	63,030
15～64歳	606,657	298,518	308,139
65歳以上	124,562	55,752	68,810
75歳以上	86,362	33,959	52,403
85歳以上	31,288	8,064	23,224

女性に関する健康課題

平成20年度に実施した本市健康づくり実態調査によると、壮年期における肥満度は男性(28.9%)に比べて女性(15.4%)の方が低く、また減少傾向(H16年度21.1%)にあった。しかしながら、青年期における喫煙率は、男性が減少傾向(H16年度52.1%→39.5%)であるのに対して、女性は増加傾向(H16年度16.5%→17.3%)にあり、健康に対する意識の低下が見られた。また、本市は他都市に比べて、女性特有のがん検診受診率(子宮頸がん15.7%、乳がん7.8%)が低く、受診率に向けた効果的な手法を模索している。

事業費(千円)

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	769
(2) 中高年期における健康支援事業	1,548
(3) 女性のがん支援事業	5,781
計	8,098

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	学生への出前講演
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 健康教育 <input type="checkbox"/> 健康手帳の交付 <input type="checkbox"/> 健康相談
事業費(千円)	107

事業目的

近年、乳がんや子宮がんなどは、若年女性がんの罹患率が上昇傾向にある。これは、がんについての正しい知識が不足していることと、検診を受ける人が少ないことが原因である。若年時から、検診の重要性及び検診に関する正しい知識を持ってもらうことを目的に実施した。

事業対象

市内女子高校生(3年生)

事業実施体制・展開

- ① 事業の趣旨説明を行い、了承を得た学校を出前講演対象校に決定。
- ② 事前に、学校側と実施日時及び講演テーマについて協議を実施。
- ③ 講師との打ち合わせに基づき、講演内容等について決定。
講演①テーマ「お金で見る健康問題」
講演②テーマ「若い人に知ってほしい予防できる子宮頸癌」
- ④ 講演会終了後アンケート調査を実施し、啓発グッズを配布。

事業目標・評価項目 及び その結果

<参加者へのアンケート調査結果>

- ① 医療制度や医療費の現状に対する理解度 理解できた(46/57人)
- ② 病気にならないことの大切さについての理解度 理解できた(51/57人)
- ③ 子宮頸がんに関する知識の理解度 理解できた(38/57人)
- ④ 健康に対する意識の変化 意識が変わった(53/57人)
(主な意見)
・もっと自分の生活を見直し、健康に気をつけていきたいと思った。
・今まで、検診などに関心は無かったけど、色々な病気の予防のために、健康に気をつけて検診を受けるべきと思った。
・検診を若いうちに受けようと思った。
- ⑤ 子宮頸がん検診の受診について 受診しようと思った(43/57人)

事業の工夫点

当初、対象者を大学生に設定していたが、企画評価委員より、「近年のがんの罹患年代を見た場合により若い世代のほうがいい。」「ある程度の知識を有し、大学生よりも先入観なく受け入れられる高校生を対象にしたほうがよい。」との意見があり、対象者を高校生に変更した。また、医療費や保険制度の内容も盛り込み、健康＝社会貢献につながることの教育を行うことができた。

事業の効果についての評価・考察

<企画評価委員会委員の意見>

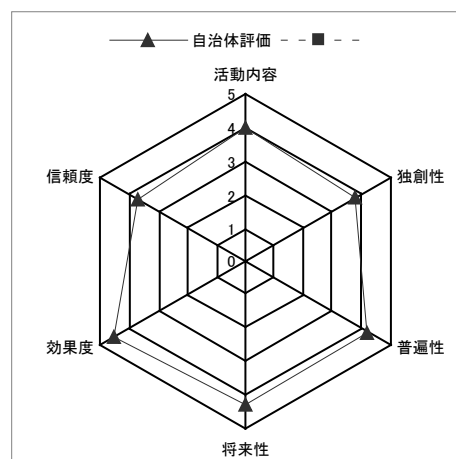
- ① 学生に対しては、これまで性教育以外の健康に対する取組みはあまりなかったのではないかと。会場を学校にすれば、あとは講師代くらいですむ。医師会等に講師の協力を得られれば、費用も余りかからない。学校と行政、医師会などの連携で比較的容易に開催できる。
- ② 高校生が、乳がん・子宮頸がんの予備群であることを踏まえると、全国の高校対象の事業として拡大が期待できる。
- ③ アンケート集計では、健康に対して93%に意識の変化が見られているため、その効果は大きいと思われるが、今回の事業は1学校の1回のみでの企画で出席者は約60名であり、企画回数を増やし、対象者を多くしたアンケート調査を分析する必要がある。

今後の課題

事業を継続するにあたり、学校側は、スケジュールの設定及び会場の確保を行い、行政は事業予算の確保及び事業実施に係る調整、医師会は、医師等の積極的な派遣と資料等の提供など、学校・行政・医師会などの関係者間の連携が必要である。現在、活動実績が少ないため、実績を積み重ねていく中で、多くの参加者の意見を反映したテーマ設定等の工夫も必要である。

ホームページ	http://www.city.kitakyushu.jp/
照会先	北九州市 保健福祉局 地域支援部 健康推進課 企画係 093-582-2018

事業評価	(企画評価委員会で評価)
①活動内容	4.0 若い女性に健康への意識を高めてもらうことで、一生の健康づくりに寄与できる
②独創性	3.8 次世代の女性を対象にすることで、家族や親族への情報提供者になり得る
③普遍性	4.2 学校単位といった地域に密着した小規模集団での開催が可能である。(教育プログラムのオプションとしても期待)
④将来性	4.3 地域医師会、校医と連携すれば継続可能と判断できる
⑤効果度	4.5 自分の体に関心の高い学生にとっては、自分の事として受け止め、今後役に立つものとなるであろう
⑥信頼度	3.7 企画回数を増やし、対象者を多くしたアンケート調査を分析する必要がある





(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	ショッピングセンターへの出張教育・相談
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 知識の提供 <input checked="" type="checkbox"/> 健康相談 <input type="checkbox"/> 情報提供
事業費（千円）	886

事業目的

本市の通年事業として、主に40歳から64歳の市民を対象に、心身の健康に関する個別の相談に応じ、必要な指導・助言を行う健康支援を目的とした健康教育・健康相談事業を市民センター等で実施しているが、より生活に密着した身近な場所で実施してほしいとの声もあがっていた。

このため、中高年の女性が多く集まる市内のショッピングセンターにおいて、気軽に相談してもらえる環境を提供し、中高年期における健康支援を目的に実施した。

事業対象

市内のショッピングセンターへ来店の女性客（主に中高年期）

事業実施体制・展開

- ① ショッピングセンターの来場者の関心を高めるため、イベントの同時開催に協力してくれる団体を募集。
- ② 協力団体やショッピングセンターとの連携により、日時・会場を決定。
- ③ 当日は相談コーナーを設け、女性保健師2名（市職員）を配置。
- ④ 健康相談実施後はアンケートにも協力を依頼。また、各種がん検診の啓発パンフレットを渡すなど受診勧奨も実施。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 相談コーナー認知度 相談者数 32 名（相談時間：11:30～15:30）

<相談者へのアンケート調査結果>

- ② 悩みや問題の解消度 解消できた（16/23 人）
- ③ 主な相談内容
- ・乳がんについて
 - ・LDL コレステロールについて
 - ・更年期障害について
 - ・月経過多について
- ④ 健康に対する意識の変化 意識が変わった（17/24 人）
- ⑤ その他意見
- ・悩んでいたことが解消された
 - ・話を聞いてもらって心が楽になった
 - ・生活習慣を見直そうと思った

事業の工夫点

中高年の方が多く集まるショッピングセンターを出張場所とし、気軽に健康相談できるよう、フリースペースで実施した。また、併催事業として、乳がん啓発イベント（自己触診指導、マンモグラフィ体験、検診予約受付等）も同場所にて同時開催し、乳がんに関する啓発活動も実施することができた。

事業の効果についての評価・考察

<企画評価委員会委員の意見>

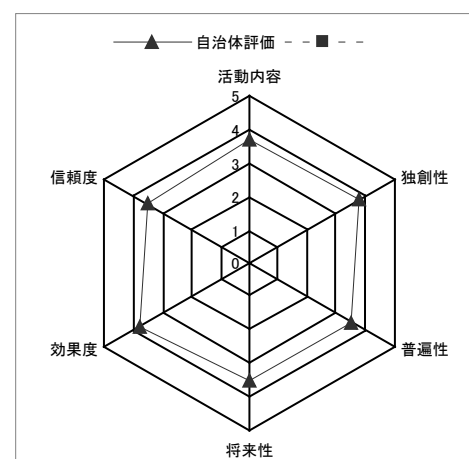
- ① 週末に開催され、また対象集団が足を運びやすい場での展開となっており、日頃、健康教育・健康相談の会場へ来る機会がない市民や、そういった事業の情報を持たない市民に、健康教育・健康相談の機会を提供することができたと考えられる。また、相談にはつながらなかった来場者についても、イベントの実施を目にすることで、健康への意識を高めるといふ波及効果が期待できる。
- ② アンケート結果からも、多くの相談者が悩みや問題を解消できており、健康づくりを支援できたと考察する。一方、多岐にわたる質問により、きめ細かい対応が困難となるケースもあったため、相談の受付内容を絞り込んで事前に分かりやすくお知らせすることについて準備しておく必要がある。
- ③ ショッピングセンターでの開催は、十分な場所が確保できないことから、順番を待つ相談者等に相談内容が聞こえることがないようにプライバシーが守れる環境を考慮する必要がある。

今後の課題

相談内容が漠然とにならないように、テーマを設定して、相談場所に掲示しておいたり、広報時にその旨のアナウンスを行うなど、何が相談できるか明確にしておくことも必要と考える。また、深い相談にも対応できるよう（プライバシーが保護できるよう）な場所の確保が必要である。

ホームページ	http://www.city.kitakyushu.jp/
照会先	北九州市 保健福祉局 地域支援部 健康推進課 企画係 093-582-2018

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3.7	対象集団が足を運びやすい場での展開になっている
②独創性	3.8	ショッピングセンターでの活動はユニークである。
③普遍性	3.5	日程・時間など検討すべき課題はあるが、日頃関心が少ない集団にも影響を及ぼし易く期待できる
④将来性	3.5	啓発イベントと共催して相談窓口を設けることは可能。その環境（雰囲気）も配慮する必要がある
⑤効果度	3.8	啓発イベントと共催し、健康相談を行うことは効果大と思われる
⑥信頼度	3.5	今回の事業参加者の効果は高いが、全体の効果への影響が明確ではない



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	ピンクリボンキャンペーンライトアップ		
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 啓発活動	<input type="checkbox"/> 健康教育	<input type="checkbox"/> 健康相談
事業費(千円)	2,500		

事業目的

乳がんの撲滅、検診の早期受診を啓発・推進するために行われる世界規模のキャンペーン活動の一環として、本市のシンボル施設「小倉城」を乳がん検診啓発シンボルカラーでライトアップすることで、市民に対してピンクリボンのメッセージを伝えることを目的に実施した。

事業対象

中学生からOLまでの若い世代の女性

事業実施体制・展開

- ① ライトアップを行う施設の決定。(話題性、予算等で決定)
- ② 点灯日・点灯時間等について、被ライトアップ施設側の意見も踏まえた上で決定。
- ③ ライトアップの設備等は専門の業者に依頼。
- ④ 広報について、イベント会社等の協力も得て実施。当日はNPOや大学もチラシ配りに協力。
- ⑤ 点灯式を実施して話題づくり。(パブリシティのため)
- ⑥ アンケート調査を実施し、啓発リーフレットやノベルティグッズを配布。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① イベント認知度 見学者数 1,354 名 (見学期間: 14 日間)
- ② イベント開催後乳がん検診受診者数の推移 4月~9月: 1月あたり 716 人、10月~2月: 1月あたり 1,400 人
 <見学者へのアンケート調査結果>
- ③ 乳がん検診受診確認度 受診したことがある (20/103 人)
- ④ 受診しない主な理由
 - ・忙しくて時間が無いから (27/103 人)
 - ・必要なときにいつでも医療機関で受けられるから (25/103 人)
 - ・検診が嫌い(怖い) (24/103 人)
- ⑤ 乳がん検診啓発度
 - ・イベントをきっかけに乳がん検診を受けてみようと思った (55/103 人)
 - ・行くかどうか分からないが検討してみたい (44/103 人)

事業の工夫点

集客が見込める場所として、隣接してショッピングモールも立地しており、本市のシンボル施設でもある小倉城を対象とした。ショッピングモールにも協力をいただき、館内放送や館内でのチラシ配りなどを実施し、広く広報を行うことができた。また、ライトアップだけでなく、乳がん啓発に関するメッセージを映し出したイルミネーションショーや点灯式を実施し、マスコミ等の注目を集めた。

事業の効果についての評価・考察

<企画評価委員会委員の意見>

- ① 北九州市では初めての企画であるが、「このライトアップで乳がん検診のことを知ることができた」「時間をつくって検診に行こうと思った」など、女性のがんについて多くの意識付けができた。
- ② 新聞やHPなどでもとりあげられ、乳がん検診のPRにつながっている。本市の乳がん検診の受診率は政令市中最も低い。定期的に行っていくことで検診の重要性に対する意識を高めることができると考えられ、乳がん検診受診者の増加が期待できる。
- ③ 継続する必要性はあるが、自治体独自ではかなりの経費がかかるため継続困難。民間企業などとも連携しながら実施する必要がある。

今後の課題

本事業により、乳がんについて関心を向けることはできるが、事業投資額が少なくなく、また関心を持った人がどれだけ受診したのかなど効果が検証しにくいことから、投資額と効果の面で疑問がある。継続するには、がん検診の受診行動にどれだけつながったかや、パブリシティの効果の検証が必要である。

ホームページ	http://www.city.kitakyushu.jp/
照会先	北九州市 保健福祉局 地域支援部 健康推進課 企画係 093-582-2018

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.3	なぜピンクにライトアップか？→乳がん啓発と知る→多くの市民へ認知可
②独創性	3.8	北九州市では初めての企画であるが、他都市でも実施している
③普遍性	3.7	既に他自治体では公共的なオブジェを使ったピンクライトアップが実施されており全国に広がっている
④将来性	3.3	市民の関心を引くためにも持続させる必要あり
⑤効果度	4.0	アンケートより効果はあっている
⑥信頼度	3.5	できれば現地だけでなく、マスコミを通じてどのくらい認知されたかを評価して欲しかった

